

### 第 3 回大船渡市災害復興計画策定委員会専門部会開催結果概要

開催日：平成 23 年 7 月 24 日（日）

開催会場：大船渡市役所

開催部会：市民生活部会、産業経済部会、都市基盤部会及び防災まちづくり部会

参加者数：市民生活部会 20 人、産業経済部会 19 人、都市基盤部会 14 人

防災まちづくり部会 23 人、（協力）岩手県立大学：ファシリテーター  
等 12 人、学生 9 人

#### 内 容

土地利用のあり方及び土地利用計画（案）をもとに、主に盛・大船渡・赤崎地区、末崎地区、越喜来地区について、ワークショップ形式で以下について意見を交換し、検討した。

- ・ 土地利用のあり方及び土地利用計画（案）

#### 市民生活部会

##### 全般

##### 安全確保について

- ・ 細かな避難道路等安全を確保してからのまちづくり・住宅づくりをすべき

##### 道路の整備について

- ・ 海岸線でしか行けない場所があるため、山道の確保を
- ・ 道路で波を抑える構造がよい
- ・ 道路は広く、ところどころに駐車場も必要
- ・ 狭くて低い道路、一方通行の道路は緊急時に危険、交通事故の危険も
- ・ もともとあった道路の不便なところを改善
- ・ まちづくりの最優先は道路整備
- ・ 橋は地震で被害を受ける恐れもあるので、嵩上げた丈夫な道路を
- ・ 車道だけでなく歩道の避難道路の確保も必要
- ・ 満潮で通れなくなる道の代わりになる道を
- ・ 道路を通ることができず、線路を歩いて目的地まで行った人も
- ・ 線路が壁となって移動ができなかったという問題点も
- ・ 通学のための道路整備が必要

##### 医療施設の立地について

- ・ 医療機関の建物は安全な場所に

##### 住宅地の整備について

- ・ 土地を造成しても、市の外れでは人が集まらない
- ・ どこに住みたいかという市民との調整が大切
- ・ 高齢化が進んでいるため、住み慣れた土地にもどりたいという人が多い
- ・ 住宅は、学校や商業地帯の近くが好まれるなど、住民のニーズとマッチングを
- ・ 建物の外見は無事でも地盤が弱くなっていて住み続けることに不安を感じている人も
- ・ 単調な山切土ではなく、風景を残して

##### 浸水域の扱いについて

- ・ 土地は地主、地権者との問題が発生するため、公的機関で買い取るなどの対応が必要
- ・ 津波災害を風化させない観点からの土地利用規制

##### 災害に備えたまちづくりについて

- ・ 津波だけでなく、地震や土砂災害にも備えたまちづくりが必要

##### 教育施設の立地について

- ・ 教育施設の早期復興を
- ・ 学校は高台に移転すべき
- ・ 運動場などレクリエーション施設の整備
- ・ 学校は避難所とはせず、グラウンドに仮設住宅は建てない
- ・ 見える所に教育施設を配置し、孤立を防ぐ

- ・ 避難所や物資倉庫にも使用できる多目的な施設の整備
- 公共交通について
- ・ 鉄道をそのまま利用するか、道路として利用するののかの見直し
- ・ 高齢化に配慮し、鉄道の変わりにコミュニティバスの利用

#### 盛・大船渡・赤崎地区

- 道路の整備について
- ・ 神社から中学校につながる道路が必要
- ・ 国道 45 号の渋滞を緩和する道路が必要
- ・ 下船渡に行くための道路が不在
- ・ 三陸縦貫自動車道につなぐ道路を
- ・ 三陸縦貫自動車道から県立病院への道路が有効だった
- ・ 拡幅など渋滞を減らす工夫を
- ・ 産業地帯への道路の確保は必要
- ・ 大船渡駅の両はじの道路の拡幅
- ・ 赤崎地区に抜ける道路が必要
- 土地の嵩上げについて
- ・ 大船渡小学校の少し上までは嵩上げが必要
- 浸水域の利用について
- ・ 広場になってしまった土地の活用方法として、憩いの場所があるとよい
- 避難施設について
- ・ 避難所を兼ねた建物はあったほうがよい
- 木材の扱いについて
- ・ 流された貯木場の木材による被害を防ぐため、保管場所確保の検討や産業界との調整が必要
- 商業地の確保について
- ・ 商業地も安全なところへの移転やかさ上げが必要

#### 末崎地区

- 被害状況について
- ・ JR 細浦駅周辺は線路も越えて被災

#### 越喜来地区

- 住宅地の整備について
- ・ 土地として優れているのに、貝塚であるため手がかけられない場所あり
- ・ 南区の高台移転の場所がないため検討必要
- 鉄道による被害抑制について
- ・ 三陸鉄道のおかげで被害が抑制
- コミュニティ施設の確保について
- ・ 公民館も流され、コミュニティの中で話し合う場所も機会もない

#### その他の意見

##### 復興計画全般

- ・ 大船渡市内で 3ヶ所は復興委員会が立ち上げられて話し合いが進展
- ・ 地域をよく知っている住民と地区ごとの大きな地図を使い土地利用について話し合える機会を
- ・ 子供達を主体としたワークショップ
- ・ もっと意見を上げる場が必要
- ・ 地元の合意形成が必要で、地域にあったまちづくりを
- ・ 市民が計画策定に意識的に参加するような工夫を
- ・ 市民が“新しいまちづくり”をするという意識を持つことが大切
- ・ 単なる復興ではなく、新しいまちづくりを

##### 市民生活関連

- ・ 仮設住宅における自治組織が必要
- ・ 親を亡くした子供達への対応を
- ・ 10～20年先も大切であるが、現在の子供達のこととも考えるべき
- ・ 災害に対応できる教育で生きる力の育成や子供 110 番の整備

##### 産業・経済関連

**都市基盤関連**

- ・ 港湾は水産・土木と管理が異なるため整備も難しいので改善が必要
- ・ 地盤沈下は国土の沈下であるので、国で責任を

**防災まちづくり関連**

- ・ 防波堤の構造を改良
- ・ 避難時は車から降りて逃げるというようなソフト面の対策も必要

## 産業経済部会

### 全般

- ・ 冷蔵施設の高台設置について
- ・ 漁協等の冷蔵庫などを高台に移転（漁協等とタイアップし共同利用）
- 道路の整備について
- ・ 三陸縦貫自動車道に繋がる道路をもっと整備
- ・ 嵩上げだけでなく拡幅も
- ・ 道路は津波の到来がわかるよう高台に
- ・ 道路を防潮堤より高く
- 教育施設の立地について
- ・ 学校を山側に、学校跡の地区住宅に
- 公共交通について
- ・ 港町で、駅を中心に発展してきたのではなく、今は需要がないため、ＪＲ大船渡線の抜本の見直しを
- ・ 大船渡駅と盛駅のうち、駅は一つでよい
- ・ 大船渡駅から仙台も含めてもっと高道の利便の良い交通網を（一関から１時間程度）
- ・ 陸前高田市に行く鉄道は海岸沿いに走る必要なし、駅自体を高台に
- ・ 鉄道により地域が分断されないように
- ・ 三陸鉄道に繋げるのに盛駅経由は必要
- ・ 通学者のことを考えて
- ・ 鉄道は広く意見を募るべき
- ・ バスの増発も検討
- ・ ＪＲ線路をそのまま高くして防潮堤機能を
- 浸水域の扱いについて
- ・ 波が来ているところの嵩上げが必要
- 住宅地の整備について
- ・ コミュニティや職場を意識した移転
- ・ 嵩上げを中心として内側の住民を守る

### 盛・大船渡・赤崎地区

- 浸水域の扱いについて
- ・ 海水の冠水区域の解決
- ・ 浸水区域を居住区域にはいけない
- 道路の整備について
- ・ 被災してしまった道路に変わる道路の建設が必要
- ・ 大船渡小学校から加茂神社までの道路が必要
- ・ 県立大船渡病院近くの道路の拡幅が必要
- ・ 県立大船渡病院近くの緊急用出口の常時開放（ＩＣ化）
- ・ 県道の嵩上げまたは山側にもう一本道路が必要
- ・ 道路嵩上げの高さの基準やそれに伴う住宅嵩上げの必要性
- ・ 清水の農道（清水～大船渡ライン）の確保
- ・ 市道の整備、統合
- ・ 県道を嵩上げしてしまうと海が見えないので、人の避難にも配慮を
- 公共交通について
- ・ ＪＲ線と避難路との兼ね合いの検討が必要
- ・ 二市一町の広域的な議論必要
- 避難場所について
- ・ 学校よりも海側に少し高い場所（保育園、農協）があり、避難路としてはどうか

### 末崎地区

- 道路の整備について
- ・ 線路の位置に道路を
- ・ 海岸部と高台移転地をつなぎ県道と接続する道路を
- ・ 孤立しないよう、山側にもう一本道路が必要（３年以内希望）
- ・ 浸水時でも市内全体を移動できるような道路が必要
- ・ 冠水がひどい地区があるので、早期に高いところに道路を
- 住宅地の整備について
- ・ 今ある街をそのままもう少し高い所に移転

- ・ 道路を含めて 15m程度嵩上げ

### 越喜来地区

- 住宅地の整備について
  - ・ 小学校跡に住宅地を
  - ・ 高台移転まで行かなくても現状維持でどうにかできる
- 防潮堤・河川の整備について
  - ・ 防潮堤を少し内陸側にし、道路と防潮堤を兼用に
  - ・ 川の高さ、河川敷などに余裕を

### 合足地区

- 道路の整備について
  - ・ 道路の嵩上げ（200mくらいの区間）

### 崎浜地区

- 道路の整備について
  - ・ 県道の迂回の検討

### 吉浜地区

- 経験・教訓の活用
  - ・ 今までの教訓が生き、人的被害はほぼない

### その他の意見

- 復興計画全般**
  - ・ 県内他地区（釜石、高田など）に比べ被害の度合いが少ないので、復興の速度を早く
  - ・ 明るいニュースで人口流出を防ぐ
- 市民生活関連**
  - ・ 二重ローン問題は、銀行での解決困難、国がリーダーシップを発揮すべき
  - ・ 被災地の電柱の明かりを少しでよいのでつけてほしい（真っ暗）
- 産業・経済関連**
  - ・ 水産業の早期復興で産業自体が沈まないように
  - ・ 太平洋セメントのライトアップは良い
- 都市基盤関連**
  - ・ 人口がむしろ増加するよう、雇用の場を創出し、そのためのインフラ整備を
- 防災まちづくり関連**
  - ・ 手動で開閉するタイプの防潮堤をなくす

## 都市基盤部会

### 全般

#### 道路の整備について

- ・ 車でも、走ってでもよいので、避難路が多く必要
- ・ 国道45号への避難経路は、狭隘、カーブ、高さ制限があるので、通しやすい明確な避難経路が必要
- ・ 避難経路として林道の早期整備（緊急用として東西南北にネットワーク）
- ・ 幹線道路（国道45号）のさらなる整備
- ・ 立体交差の道路の整備（平面交差点は避難時危険）
- ・ 冠水した道路の修復、冠水しない道路の整備が必要
- ・ 新しい道路と既存の道路をアクセスし、ネットワーク化を
- ・ 幹線道路として、平泉につなぐ道を（観光集客に世界遺産を利用）
- ・ 幹線道路に共同溝があるといい

#### 住宅地の整備について

- ・ 高台移転にあわせて上・下水道の整備も必要
- ・ 高台移転は、住居だけでなく、商業施設も建てられるように
- ・ 「ここに住むなら～嵩上げ」等の指導や看板等による危険の明示を
- ・ 居住地域に厳しい制限をつけ、未来に被害がないように

#### 道路や地盤の嵩上げについて

- ・ 嵩上げについて、最低限地盤沈下分は戻すことが必要
- ・ 道路だけ嵩上げすると城壁のようになり、景観の違和感や海が見えなくなる
- ・ 何を目的にした嵩上げなのか、どれくらいの高さが必要なのか明確に
- ・ 防潮堤を兼ねた道路の嵩上げは、避難経路を塞いでしまう懸念あり
- ・ 道路を防潮堤代わりにする際の構造はどのようになるか、道路の交差上も実現可能か
- ・ 地盤の嵩上げ場所の選定、高台移転で崩す山と嵩上げの土量のバランスを
- ・ 工業用地域など公の手が入らないところは、嵩上げ指定地域など土地利用の制限を設けないのか
- ・ 嵩上げしてから利用が望ましいことを伝えている地域が実際にあるので、方針を明確に
- ・ 嵩上げしても浸水は免れない地域の場合、嵩上げの必要性、制限について明確な方針を

#### 冠水対策について

- ・ 大潮に備えた冠水地域の対策

#### 防災拠点について

- ・ 防災拠点として駅を利用できないか
- ・ 避難道路施設と学校再建の両立が必要

#### 自然環境の保全について

- ・ ビオトープ、植林（バイオマス）など

#### 土地利用の検討について

- ・ 防潮堤の高さによって土地利用が決まる

#### 電力関連施設について

- ・ 電柱を立てても今回の二の舞に
- ・ 安定して電力を供給するために冠水しない安全なルートを確保
- ・ 魚市場周辺の冠水沈下したところの電力確保

#### 避難場所・施設について

- ・ 一時避難用か長期滞在可能かを明確に
- ・ 避難所が足りているか確認が必要（避難経路の先に避難所がないことも）

#### 公共交通について

- ・ 線路はどう嵩上げするのか、新規ルートはどうなるか
- ・ 鉄道を避難経路として活用、最短経路で、孤立した小さい集落に有効
- ・ 鉄道駅を拠点とした街づくり
- ・ 駅を中心とした公共施設の集約（高齢者対応）
- ・ 踏み切りを作る課題

#### 教育施設の立地について

- ・ 学校を鉄道から山側に移転

#### 農地の整備について

- ・ 水田減少に歯止めを

#### 商業地の整備について

- ・ 商業地区、施設の誘導をどうするか

### 盛・大船渡・赤崎地区

#### 工業地域について

- ・ 工業専用地域の土地利用について、どこがいつ使えるのか方針の早期決定を道路や地盤の嵩上げについて
- ・ 嵩上げにより港の施設の利用が難しくなるのでは
- ・ 茶屋前港湾は太平洋セメントの利用を考慮した道路の嵩上げを検討する必要性
- ・ 西側の地盤レベルは変更せずに、道路高を上げる
- ・ 海と町が分断されるため、見通しがなくなるので海の状況が分からず避難が遅れる
- ・ 嵩上げ高さの理想は明治三陸大津波の規模を想定した高さ（JR、国道45号より奥の浸水は防ぐ）
- 商業地の整備について
- ・ 中心街がすべてなくなってしまったので、まとめて移動する必要がある
- ・ 商業地区・施設のにぎわいをどのように誘導するか
- 道路の整備について
- ・ 魚市場から三陸縦貫自動車道に繋ぐ道路（スマートインターチェンジ）
- ・ 三陸縦貫自動車道のICについて病院へのアクセスをしやすくする道路があるといい
- ・ 山方向への避難路としての道路整備が必要
- ・ 新しい道ができれば、新たな人の動きが生まれる
- 公共交通の整備について
- ・ 今の位置で、鉄道を嵩上げすれば、かなり効果も高いように思う
- 防波堤・防潮堤について
- ・ 河を上ってくる津波に対しては川口橋に水門を計画
- 住宅地の整備について
- ・ 駅付近の浸水域についても、嵩上げにより住宅地として計画
- 避難場所・避難施設について
- ・ 実際に走ってみて、どの程度（時間）で安全圏までいけるのか確認が必要
- 浸水区域の利用について
- ・ 建物の上層階に重要設備を入れることで津波による被害を軽減
- ・ 避難ビル等の設置

#### 末崎地区

- 道路の整備について
- ・ 県道以外の避難道路の整備が必要（林道等）
- ・ 高台移転と道路整備はセットで実現
- 住宅地の整備について
- ・ 盛土に住みたくないという方は多い
- 道路や地盤の嵩上げについて
- ・ V字堤防による対策は費用対策効果でいくと現実的ではないため、道路嵩上げ方式が有効

#### 吉浜地区

- 経験・教訓の活用
- ・ 明治の津波の経験からまちづくりされていたため、今回はほぼ農地だけの被害
- 漁港の整備について
- ・ 漁港を被災前の状態に復旧する

#### その他の意見

##### 復興計画全般

##### 市民生活関連

- ・ 高台移転に伴う費用面での国の助けが必要、又、土地の買い上げ、交換など
- ・ 働く人の安全を守るしくみを

##### 産業・経済関連

- ・ 電気の安定供給も含め、自然エネルギーへの対応を
- ・ 自然エネルギーと既存エネルギーのバランスを
- ・ 水質改善対策を

##### 都市基盤関連

- ・ 主要道には電気の主要線もあり、基盤整備が必要

- ・ 冠水しない地域への電気供給を確保
- ・ 水産・工業への電気供給を確保
- ・ 高齢者、障害者の移手段、方法の整備

#### 防災まちづくり関連

- ・ 津波が来るという考えで、減災の対応を
- ・ 防波堤により5分でも10分でも避難時間を稼げたのは重要なこと
- ・ 最後まで命をはる人（消防団）も助かるように水門の見直し
- ・ NTTは3階以上に設備を入れる
- ・ 川から来る津波をどう防ぐのか、河川の堤防高の考え方重要
- ・ 公式な避難所での食料の備蓄、通信手段の確保、避難所同士をつなぐ道路の整備は必要
- ・ 防災施設、避難場所の電力のバックアップ電源の整備を
- ・ 耐震強化岸壁の整備
- ・ 20年、30年後にこの土地に住む人にこの津波の被害を伝えるためにも看板の設置などが必要
- ・ 防波堤の強度の強化
- ・ 防潮堤で防げなかったら場所を変えるなどの工夫を
- ・ 避難所の備蓄が必要、わかりやすい備蓄を（駅にコンテナを置くなど）
- ・ 電力、燃料、食糧の備蓄、通信手段を確保した避難所が必要



## 都市基盤部会

### 全般

- 避難場所・施設について
  - 車をたくさん収容できる逃げ場も必要
- 道路の整備について
  - 嵩上げではなく、高い所に道路を造るという発想を
  - 避難しやすい道路のレイアウトを
  - 高台等移転地に繋がる道路や移転地内の道路整備
- 地盤・道路の嵩上げについて
  - 地盤沈下したところは1m程度の嵩上げとし、その他に別ルートがあればよい
  - 嵩上げが避難の妨げにならないように
  - 三陸町に海拔0メートルの箇所がある
- 土地利用の考え方について
  - 遊休地の有効活用
- 防潮堤について
  - 防潮堤を海岸線から下げる
- 防災拠点の整備について
  - 防災センターを広い所に確保し、サテライトも整備
- 住宅地の整備について
  - 住むところの確保を最優先
  - 移転予定地には最低限の機能を
- 漁港の整備について
  - 港の集約など、水揚げするところを一つ確保
  - 利用できる岸壁の整備を
- 都市施設の配置について
  - 主要地域には銀行や飲食店を
  - ホテルや商店は移転地付近に
- 公共交通について
  - 三陸鉄道南リアス線はよく考える必要あり
  - 安価なバスとした方がよい

### 盛・大船渡・赤崎地区

- 住宅地の整備について
  - 嵩上げしても前と同じ場所には住みたくないという人が多い
  - 大船渡の中心地とどう結び付けるか
- 公共交通について
  - J Rの盛り土を嵩上げしては
  - J Rを撤廃し、線路を道路にして嵩上げしては
- 道路の整備について
  - 緊急時にも使える道路が必要
  - 高台までの道は急斜面が多く、子供や高齢者にはきついで、避難路は緩やかなスロープ等に
- 教育施設の立地について
  - 2つある小学校を統合しては
- 公共施設の立地について
  - 基幹施設も高いところにあげるべき
- 避難場所・施設の整備について
  - 山側に避難可能なスペースを
- 防災拠点の整備について
  - ヘリコプターがとまれるような場所を

### 末崎地区

- 道路の整備について
  - 末崎小学校からの道路を整備

## 越喜来地区

### 漁港の整備について

- ・ 応急処置でいいので、越喜来漁港の高波対策を

### 教育施設の立地について

- ・ 津波の被害を受けた越喜来小学校は高台に移転すべき
- ・ 防災センター、病院、学校など主要施設は高台に移転した方がよい

### 電力関連施設について

- ・ 越喜来小学校の下の土地（南区）で太陽光発電をしてみても

### 高台の土地利用について

- ・ 泊区、南区の山の土地利用をどうするか

### 道路の整備について

- ・ 国道 45 号からの道路の利便性向上

### 地盤や道路の嵩上げについて

- ・ 嵩上げによる安全性確保
- ・ 嵩上げの度合いによってその土地の用途が変わるので、決まらないと計画が立てられない
- ・ 土地を高くすると利便性が低下する

## 綾里地区

### 住宅地の整備について

- ・ 海のことだけでなく、山からの土石流のことも考える必要あり
  - ・ 今の住居等の高さは S8 が基準となっているが、今回はもう一段高くすべき
  - ・ 盛土をしたところは地割れをする危険性があり、住居を建てる場所としては不適切
  - ・ 沢のあったところも地盤弱いのでは
- ### 浸水区域の利用について
- ・ 流された場所は加工場や畑などに利用し、住居は高台へ

## その他の意見

### 復興計画全般

- ・ 土地利用計画（案）は平面図だから高さの検討が困難
- ・ 1000 年に一度の津波のために、日常生活であまりに不便な思いをするのは考えもの
- ・ 市の職員が現地入りして計画を

### 市民生活関連

- ・ 流された土地の買い上げを

### 産業・経済関連

### 都市基盤関連

### 防災まちづくり関連

- ・ 津波や海拔高さの標識があればよい
- ・ 寒くて避難所に行くのが嫌だったので、避難所の構造・設備も大事
- ・ 3カ所くらいに、津波を遮断できるものがあれば
- ・ 電動の水門が閉まらなかったこともあり、ハードだけの防災はよくない
- ・ 映像等活用し、災害を風化させない努力、備えと教育、防災訓練がマンネリ化しない啓発が重要
- ・ 「鉄道より上は大丈夫」「今回も大丈夫」という安心感や油断を防ぐ
- ・ 避難所には電力と水を
- ・ 防波堤、防潮堤の強化
- ・ 買い物をしているとき、車での移動中、道が分からない人の避難への配慮
- ・ 避難時に事故が起こると渋滞してしまうので、車の誘導が必要
- ・ 地区の防災組織の整備
- ・ 発電機などライフラインの確保